

・ このフィードバック会では、私の距離の取り方が、チームで最高の人間関係を作ることを目指している今、足を引っ張っているということを、メンバーと陽子さんから強く伝えられた時間だったと感じました。

これだけお互いの情報を伝え合っていて、良い意味でこだわりのないタイプと分かっているながら、ちょっとしたことも反応を気にして「話せない」というのは、相手を不快にさせているということに気付いたのです。

根本原因に、私が蓋をしてしまっている過去(特に親との関係性)との向き合いがあって、そのの振り返りをしないままに次に向かおうとしているから、人と距離を取って、人間関係を浅く構築してしまっているのだと気付きました。

かなり長い間の癖になってしまっているところを一つ一つ直していくことになるので、長く大変な道のりだと思います。

ですが、子供との関係をよりよくしたい、子供に自分の人生を切り開いてほしい、そう強く願うからこそ、私は変わりたいと強く思えたのです。

メンバーの皆と陽子さんには私が楽な方に逃げ込もうとした時に、そうなっていると伝えてほしいと思ったし、まずは自力で気付いて戻す実力を付けないといけないと思った。

他のメンバーへのフィードバックでは、他の方からの依頼を旅先で一生懸命に対応しようとしていた姿について、自分に対しても、もっと貪欲に出来るのではという話がありました。

陽子さんからは仕事ぶりについて合格点(70~80点)だけど、満点(1番)を目指せるはずなのに目指しているように見えないというフィードバックがありました。

こんな風に相手を引き上げるようなフィードバックをしたいと思いました。

陽子さんはもう一人のメンバーに対しても「余裕のなさ」を釜立ての様子から見通して、今まで通りのやり方で今の合宿に向けた取り組みに対応するのは難しいことを伝えていました。

また、事例も合わせて聞くことで、難しいことを成し遂げようとする時には、時に「無敵の人」の作戦を取るほどのなりふり構わずさが必要なのだと思いました。

今回も陽子さんからポイントを押さえたフィードバックを頂きましたが、今後は自分達でこのクオリティのフィードバックをしていないといけないのだと思います。そんな思いを強くしました。

(A.S 40代女性 大阪府)